

COMMUNICATION



Vol.18
2015.8

Pickup社員



新入社員

松岡 美貴さん・林由吏加さん・高木 真さん



CONTENTS

- ◆ がんばる中小企業・小規模事業者300社 ◆ 7社間包括業務提携をしました
- ◆ 下松リサイクル工場に新施設が完成！ ◆ お客様紹介 西日本旅客鉄道株式会社 岩国運転区 様
- ◆ 廃棄物法令レポート ◆ トピックス

ごあいさつ

中特グループ副代表 橋本ふくみ

みなさん、お楽しみ様です。

お疲れ様ではなく、お楽しみ様つて良いですね。日頃からこんな挨拶を交し合っていたら、どんなに疲れていても「あ、私って今楽しんでるんだったわ！」なんてポジティブに元気になる気がしますよね。《いつも明るく元気よく》という私たちのスローガンにピッタリな挨拶だと思いますか。

さて、私たち中特グループでは、中国特殊が今年50周年目を迎えました。これまで続けて来られたのも、日々指導して下さる行政の皆様、温かく見守って下さる地域の皆様、こんな私どもにご用命下さるお客様、そして何よりわが中特グループの社員の皆様と創業者と会長のお陰様であり、感謝しても感謝しても足りない思いでいっぱいです。

私は、8年前に社長という役職を頂いてからは、子供の頃はまったく勉強などしなかった私ですが、ステークホルダーの皆様への責任と使命感を強く感じ、まだまだ未熟ではございますが日々精進しているところでございます。

さて、現在のわが国日本を取り巻く環境は、50年前の人口が増

加し続けた高度成長期とは違い、決して素晴らしいことばかりではありません。世界人口は70億を超えているものの日本の人口は減少を続け、30年後には1億を割り、しかもその内65歳以上が40%、75歳以上も25%になると言われています。

また、大部分を占める中間層の生活の貧困化、生活保護受給者の大幅な増加も深刻な問題となっております。これが現状なのです。

けれども、皆さんもご存知のように、このような環境にあっても、成長を続けている企業さんも多くあります。何故でしょうか。私がお付き合いさせて頂いている、元気な企業さんには共通することは、このような環境だからこそ現実逃避せず、目先のことや自分のことだけ考えることなく、如何なる場合もプラス思考で前向きに行動しておられるということです。

ですから、私たちも《現実を見よう、外を見よう、先を見よう》という合言葉を今一度かみ締め、チーム

ワークを発揮して日々行動して行きましょう。

この頃私たちは、3月に経済産業省から《がんばる中小企業300社》に選定して頂いたり、またこの度は大変光栄なことに、環境省より《環境人づくり企業大賞 奨励賞》を頂くことが決まりました。この評価の対象となった取組みとして、「従業員が地域へ出て環境活動をし、それを研鑽の場と位置づけており、チームも多岐に渡る。地域に即し実践しながら、一緒に悩み改善していくというプロセスがある」とありました。

正に、私たちが日ごろから目指している企業像を評価して頂けたと大変嬉しく思っております。

社会の生活環境問題を解決すること。これが私たちの使命です。

私たちは、《快適環境創造企業》として「ハチドリのひとつずつ」のように、今私たちに出来ることをコツコツとやるのみです。

皆さん、これからもよろしくお願ひします！



「がんばる中小企業・小規模事業者300社」に選定されました

このたび、中特グループの統括会

社である「株式会社中特ホールディングス」が、経済産業省・中小企業庁より「がんばる中小企業・小規模事業者300社」に選定されました。

「がんばる中小企業・小規模事業者300社」とは、革新的な製品開発、創造的なサービスの提供等を通じて、地域社会の発展に貢献する中小企業・小規模事業者を経済産業省・中小企業庁が選定するもので、これを広く周知することで、選定された事業者等の社会的認知度や労働者等のモチベーション等の向上を図ることに加え、後進の育成も目的とする、とされています。

平成27年3月27日(金)経済産業省本館にて開催された授賞式には、株式会社中特ホールディングス 橋本社長が出席し、表彰状と盾が授与され

ました。

中特グループの中核企業である「中国特殊株式会社」は、今年が創業50周年となります。50周年の年に、このような栄誉にあずかり大変光栄に存じますと同時に、地域の皆様に支えられ、ご指導頂きました賜物と心より感謝申し上げます。この賞に恥じないよう、今後も社員一同益々精進して参る所存でございますので、よろしくお願い申し上げます。



授賞式

下松リサイクル工場に新施設が完成！

～脱塩・分離・改質 施設～



平成26年12月より工事を進めてきた新施設「脱塩分離改質施設」は、平成27年3月末に無事完成し、平成27年5月1日付で、産業廃棄物の変更許可を取得する事が出来ました。「山口県廃棄物3R推進事業補助金」の認定を受けて完成したこの施設は、協力業者様や各事業部の多大なる協力も得ましたが、亡き松原専務と我々リサイクル事業部が中心となり計画し実行し完成した、

苦労と努力の賜物だったと思います。

建設が決定してからは、新施設がより良い施設になるように、いろいろな課題や問題点の改善策について度重なる打合せを行い、設計から施工管理にまで事業部として携わりました。完成から許可を頂くまでは大変忙しく、業務に邁進した日々だったと感じています。施設完成に向けては各事業部が一体となり進めて参



りましたが、これに携わってきた従業員は、なかなか体験することのない素晴らしい経験を積む事が出来たのではないかと思います。

この施設の完成により、これまでリライフが苦手としていた塩素を含んだ燃え殻や汚泥の処理、高含水汚泥の処理が可能となり、受け入れる廃棄物の幅が広がりました。

現在は本格的に稼働を始め、お客

さまから受け入れる廃棄物の処理に従業員一丸となって進めている所であります。新施設を1日でも早く軌道に乗せるために、まだまだ解決すべき点がありますが、売り上げを伸ばし稼働率を上げるために、一日を大切に日々の管理の中から次のステップが何なのかを見つけていきたいと思っています。

前期のテーマは『変化こそ大チャ



ンス』でしたが、平成26年8月の吉本興業固形産廃部門の移管に始まり、新施設「脱塩分離改質施設」の変更許可取得と大きくリライフが変化した期ではなかったかと思えます。これから大きなチャンスを見、社会に貢献出来る会社を目指していきたいと思っています。

(株)リライフ リサイクル事業部

部長 江村 範久

7 社間包括業務提携をしました

株式会社中特ホールディングスは3月13日、スズトクホールディングス株式会社（本社／東京都千代田区）と株式会社エンビプロ・ホールディングス（本社／静岡県富士宮市）との包括業務提携に、株式会社イボキン（本社／兵庫県たつの市）・株式会社やまたけ（本社／東京都足立区）・株式会社マテック（本社／北海道帯広市）と共に加わり、6社間相互に包括業務提携契約を締結しました。

また、6月17日には株式会社青南商事（本社／青森県弘前市）も加わり、7社間相互での包括業務提携となりました。

提携の目的

今回の業務提携では、7社の保有する経営資源を最大限活用し、事業を通じて持続可能な社会を実現し、かつ事業に関わる関係当事者の幸福に貢献する事を目的とします。

7社は、7社間で協力して現在の事業を成長させるとともに、独自性ある技術および新たなビジネスモデルを確立して、社会的価値の向上を目指します。同時に、アジアを中心に海外事業を促進し、欧米諸国の大規模な同業者との競

争に耐えうるグローバルな展開を実現することを目指します。

また、7社が目指す理念および方向性に共感を示す同業者等の参加を積極的に受け入れます。同時に、7社が属する隣接業界においてもリーダーシップを発揮し、日本を代表する「リサイクルメジャー」として、資源、エネルギー分野における国家戦略の一翼を担う事業を行うことを目指します。

業務提携の内容

7社役員が集う会議を定期的で開催し、以下の事項について協力して推進します。

- | | |
|------------------|--------------------------|
| (1) 営業企画に関する事項 | (6) 遵法、コンプライアンスに関する事項 |
| (2) 共同の仕入れに関する事項 | (7) 総務、人事、庶務、事務、会計に関する事項 |
| (3) 共同の販売に関する事項 | (8) コンピュータシステムに関する事項 |
| (4) 技術ノウハウに関する事項 | (9) その他、7社が決定した事項 |
| (5) 障害福祉事業に関する事項 | |

当社の概要

名称	株式会社中特ホールディングス
本社所在地	山口県周南市大字久米 3078 番地の 1
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 橋本ふくみ
事業内容	グループ企業（廃棄物処理・リサイクル事業）の統括
資本金	30 百万円
グループ売上高	1,224 百万円 (平成 26 年 7 月 31 日現在、グループ事業会社 4 社の直近決算数値を単純合算したもの)
設立年月日	平成 24 年 4 月 2 日

業務提携先の概要

名称	スズクホールディングス株式会社
本社所在地	東京都千代田区大手町 1 丁目 7 番 2 号 東京サンケイビル 15 階
代表者の役職・氏名	代表取締役社長グループ COO 伊藤清
事業内容	グループの事業（リサイクル・廃棄物処理とその関連事業）の統括
資本金	100 百万円
グループ売上高	53,647 百万円 (2014 年 6 月 30 日現在、グループ事業会社 8 社の直近決算数値を単純合算したもの)
設立年月日	平成 19 年 7 月 2 日

名称	株式会社エンビプロ・ホールディングス
本社所在地	静岡県富士宮市山宮 3507 番地の 19
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 佐野富和
事業内容	資源リサイクル事業を行う傘下事業会社の経営管理
資本金	704 百万円
連結売上高	35,786 百万円（平成 26 年 6 月期）
設立年月日	平成 22 年 5 月 21 日

名称	株式会社イボキン
本社所在地	兵庫県たつの市揖保川町正條 379 番地
代表者の役職・氏名	代表取締役 高橋克実
事業内容	鉄・非鉄リサイクル、廃棄物リサイクル、解体撤去工事全般
資本金	40 百万円
売上高	6,967 百万円（平成 26 年 12 月期）
設立年月日	昭和 59 年 8 月 1 日

名称	株式会社やまたけ
本社所在地	東京都足立区西新井 5 丁目 35 番 13 号
代表者の役職・氏名	代表取締役 山口章
事業内容	鉄、非鉄スクラップ加工処理 産業廃棄物中間処理、収集運搬、自動車、家電リサイクル
資本金	10 百万円
売上高	2,138 百万円（平成 26 年 3 月期）
設立年月日	昭和 40 年 4 月 1 日

名称	株式会社マテック
本社所在地	北海道帯広市西 21 条北 1 丁目 3 番 20 号
代表者の役職・氏名	代表取締役 杉山博康
事業内容	鉄、非鉄スクラップ、紙の収集運搬、加工、リサイクル等
資本金	96 百万円
売上高	25,737 百万円（平成 26 年 12 月期）
設立年月日	昭和 35 年 1 月 12 日

名称	株式会社青南商事
本社所在地	青森県弘前市大字神田 5-4-5
代表者の役職・氏名	代表取締役 安東元吉
事業内容	非鉄金属、製鉄原料の回収、加工及び販売
資本金	98 百万円
売上高	21,569 百万円（平成 26 年 12 月期）
設立年月日	昭和 47 年 9 月 1 日

第2回 エコフェス in 中特グループ



平成27年5月30日、エコフェスin中特グループが開催されました。私は、エコライフPJのメンバーとして、準備から参加させて頂きました。入社して初めて参加するエコライフPJのイベントということで、わくわくしながらも非常に緊張していたと今になって思います。

当日は、ペットボトルを使った車、卵パックを使った花等の工作を、来場してくださったお客様に作り方を教えながら、体験して頂きました。私自身も来場された方と、楽しく話しながら、工

作のお手伝いできました。

事前にチラシを配ったり、工作の準備をしたり、皆さんのお役にきちんと立てたかどうかは分かりませんが、色々な方と触れ合える良い経験をさせて頂きました。

来年もさらにより良いエコフェスが開催できるよう、メンバーの皆さんと力を合わせて頑張ります。

(株)中特ホールディングス

CS営業部 林 由吏加

Visitor Introduction

～ お客様紹介 ～

西日本旅客鉄道株式会社 岩国運転区 様



西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本) は、昭和62年4月1日の会社発足より近畿、中国地方を中心に地域の皆様とともに歩みを続け、毎日約500万人のお客様にご利用いただいております。その中で弊社は平成17年4月25日に福知山線列車脱線事故を引き起こしました。この責任と重大性を重く受け止め、社を挙げて安全で安心・信頼される鉄道を目指して全力で取り組んでおります。

岩国運転区は山陽線岩国駅構内に位置し、広島都市圏を中心とした「広島シティネットワーク」における運転士の拠点として、広島～岩国間を中心に毎日約250本の列車を担当しています。

新型電車227系「RedWing」も本年3月の運転開始当初から担当しており、今後も更なる安全・安定輸送の実現に向けて、日々の弛まぬ努力を積み重ねてまいります。



Message



岩国運転区の武永と申します。当区の区長として3年目に入りました今年、これまで着手できていなかった事務作業廃棄物の抜本的な処理にあたり、日頃からお付き合いのある中特グループの皆様のお力添えを得まして、安全かつ確実に実施できる運びとなりました。

当区にとりまして発足以来初めてとなります新型電

車の運転開始により、従来型の電車と比較し大幅な省エネによる運転が可能となる中で、当区としても引き続き中特グループの皆様とともに環境にやさしい職場づくりを進めてまいりたいと考えております。

これからもよろしくお願いいたします。

福岡・長崎 研修旅行記

入社して約2カ月半。
初めての研修旅行に参加させて
頂きました。

初日に訪問したのは、株式会社
障がい者つくし更生会様。テレビ
や新聞で紹介されており、3月には
「日本でいちばん大切にしたい
会社」大賞で、審査員特別賞を受
賞されたとのことでした。

社員数38名のうち、31名の方が
何らかの障害を持っているとのこ
とでしたが、一人ひとりの「でき
ること」を尊重しており、障害を
感じさせない良い雰囲気職場環
境が整っていると感じました。

人にはそれぞれ個性があり能力
が違います。

それを受け入れ、自身ができる
精一杯のことを一生懸命行うこと
が大切だと思いました。

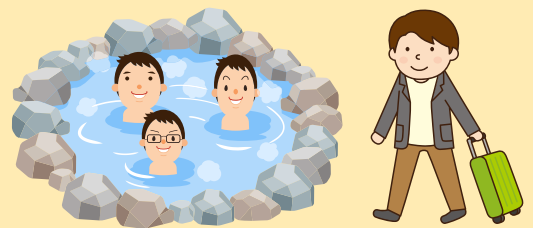
また、視察の他にも、キリンビ
アファームでの昼食、嬉野温泉、
先日世界遺産に登録された軍艦島
を訪れることができました。

特に軍艦島は、自分では訪れる
機会がなかったと思うので、世界

に認められた日本の名所に、会社
の皆さんと訪れることができ、大
変貴重な体験でした。

今後、業務を行う上で、研修旅
行で見たもの、感じたことを活か
したいと思います。

(株) 中特ホールディングス
CS 営業部 松岡 美貴



Happy Happy 勉強会

毎年恒例のHappy Happy 勉強会で、なにわ
のメンターこと、ナニメン「吉井雅之」先生の講演を
聞かせていただき、普段何気なく発している言葉のも
つ影響力の大きさに気付きました。プラスの言葉を使
えば使うほど、気持ちもワクワクしていき、逆にマイ
ナスの言葉を使えば使うほど、気持ちは沈んでいくと

いうことを、脳科学の観点からも分かりやすく説明し
ていただきました。これからは、つらいことがあっても、
プラスの言葉を意識して使うようにし、毎日を楽しく
していきます。

(株) 中特ホールディングス

CS 営業部 藤田 晃大



『廃棄物法令レポート』

Report

平成27年6月30日付で、「規制改革実施計画」が閣議決定されました。

規制改革実施計画

<http://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/kaigi/publication/150630/iei1.pdf>

廃棄物処理法関連では、

①「店頭回収されたペットボトル等の再生利用の促進」

②「企業グループにおける産業廃棄物の在り方の見直し」

③「県外産業廃棄物流入規制の見直し」

④「廃棄物処理法の実地確認に係る運用の統一」

⑤「産業廃棄物収集運搬業許可に係る申請書類様式の統一化」

の5点について、規制の必要性や緩和の方法が改めて検討される予定です。

今回は、①と②の要望趣旨と、法改正の見込みについて解説します。

なお、③から⑤までの3項目については、日本経済団体連合会からの要望で、「地方自治体間の運用のばらつきを統一して欲しい」という趣旨になります。しかし、国とさえども、直接地方自治体の事務の進め方を直接指図するわけにもいきませんので、すぐに規制改革が実現するかどうかは不透明です（おそらく、大きな変化は無さそうです）。

①「店頭回収されたペットボトル等の再生利用の促進」は、「店頭で回収した使用済みペットボトルをリサイクル事業者に運ぶまでの間は、廃棄物収集運搬業の許可を不要として欲しい」というものです。環境省は、店頭回収後のペットボトルリサイクルを推進させるためには、「再生利用指定制度」を活用する方法があるとし、各都道府県に再生利用指定制度の活用について周知をする予定です。

既に、規制改革実施計画の決定に先んじて、東京都が店頭回収された

ペットボトルを再生利用指定制度の一環として位置づけています。そのため、場合によっては、意外と早く再生利用指定制度の活用が全国的に進む可能性があります。

ちなみに、東京都の場合は、ペットボトルのリサイクルを行う事業者を先に「個別指定」し、その個別指定事業者のところに、ペットボトルを運び込む事業者を「一般指定」しています。「個別指定」を受けるには、それぞれのリサイクル事業者が申請をしなければなりません。が、「一般指定」の場合は、個別指定事業者へリサイクル目的でペットボトルを運ぶ事業者すべてが包括的に指定の対象となりますので、特定の企業ごとの申請は必要ありません。

②「企業グループにおける産業廃棄物の在り方の見直し」は、「同一の企業グループから発生した産業廃棄物を、その企業グループ内で処理

する場合、排出事業者自身の自ら処理とみなして欲しい」という、日本経済団体連合会からの要望に基づくものです。自ら処理とみなされると、産業廃棄物処理業の許可取得が不要となりますので、同じ企業グループ内の他社の産業廃棄物を自由に処理できるようになります。

しかしながら、果たしてそのような特例が本当に必要なのか、また特例を認めた場合に起こる弊害が色々と予想されますので、現段階では、まず環境省と経団連の間で議論を深めた後、改めて中央環境審議会に諮問される予定となっています。そのため、このテーマが次の廃棄物処理法改正項目に盛り込まれるかどうかはまだわかりませんが、もしそれが実現した場合は、廃棄物処理企業にも大きな影響が出そうです。



行政書士エース環境法務事務所代表
行政書士 尾上雅典先生

中特グループ法務顧問。許認可申請の代行といった単なる行政書士業務に止まらず、廃棄物処理企業の経営基盤確立のため、従業員教育、法務相談など、廃棄物処理企業に特化したサービスを提供されている。

その他、業界誌への寄稿、排出事業者向けのセミナー・講演、廃棄物管理状況の監査など、廃棄物処理企業以外に関係者にも廃棄物の適切な処理を進めていただくべく、精力的に啓発・教育活動も展開中。

この人に聞く！

中特グループを長く支えてくださっているベテラン社員さんを紹介するコーナー「この人に聞く！」の第5弾です。

岩井 勝己さん



今回はいつも笑顔が素敵な、㈱吉本興業サービスグループ・岩井勝己さんにインタビューしました。

Q1.入社されて何年ですか？

19歳の時に入社したので、あれから22年経ちました。

実はこの会社に入るまで3か所勤めたのですが、長続きしませんでした。

㈱吉本興業のパッカー車をよく目にすることがあって、印象的で同じような仕事がしたいと思っていたらタイミングよく求人が出ていたのですぐに応募しました(^^)v

Q2.現在の業務は？

毎日、パッカー車に乗って街中をグルグルグルグル廻りまわります(ノ)

たまに、パッカー車を見かけた子供さんが手を振ってくれるので、とても嬉しく「よし！頑張ろう！」という気持ちになり、私も子供さんに手を振り返します(^^)／街の皆さんに元気を頂けて感謝しています。



Q3.昔と今とは…

昔は、「分別」の種類があまりなくて資源もなく燃やせる物、燃やせない物だけでしたが今では、細かい種類に「分別」しないとイケないので以前より大変になりました。

Q4.今までに一番印象に残った作業は？

10年位前の台風被害の時です。普通であれば、40～50ヶ所回収して処理場へ搬入だけど、この時だけはガレキ等の量が半端なくて多い所では、2～3ヶ所回収しただけでパッカー車が満杯になるほどの状況が2週間位続いて大変な状態でした。いろいろ被害を目の当たりにして少しでも皆さんのお役に立つことができればと思い、日々作業させていただきました。

Q5.長い間、今の仕事を続けられた秘訣は？

とにかく体を使った仕事があったという理由と、環境にも恵

まれて今に至っています。

体力づくりを兼ねて、家から会社まで自転車で通っていたこともあるんですよ。実は片道20キロ、時間にして1時間ちょっとを毎日往復していました。(インタビューが、「すごすぎる～！」と驚く)

今は、業務の都合もあり自転車通勤とはいなくなりましたが、たまにトレーニングジムに通って健康を維持しています。(ドヤ顔)

19歳の頃に比べて、今の方が体力に自信があります。(ニヤリと笑う)



Q6. 今、やりたいこと、はまっていることはありますか？

まず、やりたいことは国内旅行ですね～。北海道から沖縄まで限らず行ってみたいと考えていますが、特に富山県の黒部峡谷に行ってみたいです。きれいな星を見られる場所にも行ってみたいです。それと、もう1ヶ所ありました！高知県にある海洋堂フィギュアミュージアムに行きたいんです。いろいろなフィギュアがあり、特に食玩が見てみたいんです。皆さんも卵型のチョコレートを食べて食玩集めをしたことはありませんか？それが大好きなんです。たくさん集めましたが、今は泣く泣く手放して甥っこのもとへ…(T_T)

意外かもしれませんが、実は広く浅くの多趣味で今は、オーディオをいじることとパソコンを自分で組み立ててみたいと思っています。



Q7. 30年後何をしていると思いますか？

きっと年金暮らしかなあ…できれば今の仕事が続けられたらいいなと思います。何か仕事をして生涯現役でいたいなと思っています。もしかしたら、どこか新しい土地で生活しているかもしれませんね(笑)

Q8. 最後に一言

今の役職をいただいてから1年ですが、皆さんが補ってくれているので手探り状態ながら何とかやってこれたと思い、日々感謝しています。これからも、皆さんのお手本となるように日々の業務を頑張ります。パッカー車に乗っている私を見かけたら皆さんぜひ手を振ってください(^^)／



(インタビュー：㈱中特ホールディングス総務管理部 齋本・坂本)

活動報告

Topic

周南冬のツリーまつりでボランティア清掃をしました

12月23日（火）に開催された2014 周南冬のツリーまつりでグループ社員や家族が参加し、ボランティア清掃をしました。

青空公園から徳山駅周辺までごみ拾いをして回りました。イルミネーションで彩られた駅周辺の街をきれいにすることができました。



やまぐちインターンシップ&キャリア学習フェア2014に出展しました

12月25日（木）に山口市の山口グラインドホテルで開催された『やまぐちインターンシップ&キャリア学習フェア2014 冬』に出展しました。

このイベントは、学生が山口の企業と出会い、企業への理解を深め、はたらくことを学ぶフェアです。午前中は学生のインターンシップスピーチ大会が開催され、午後は企業ブースにて当グループの紹介を積極的に行っていました。



安全運転講習会を行いました

1月28日（水）～1月30日（金）に株式会社ライフデザイン様のご協力で全社員を対象に安全運転講習会を行いました。このたびの講習では具体的な事故例を用いた対処法の説明などか



りやすく教えていただきました。また交通安全に関するクイズもあり、知識の

再確認をすることができました。社員ひとりひとりが常日頃から安全運転を意識し、「事故ゼロ」を目指します。

中国地域カーボン・オフセット賞優秀賞を受賞しました

この度、当グループが2年間連続で継続的に実施している、周南24時間リーマラソンにおけるカーボン・オフセットの取り組みが『中国地域カーボン・オフセット賞優秀賞』に選ばれました。



この賞は、中国地域において「レジット制度やカーボン・オフセットの普及促進を図るため、中国地域」のクレジット制度ネットワーク会議がカーボン・オフセットの取り組みを評価し、実施団体を表彰するものです。

当グループでは、周南24時間リレーマラソンの会場のエネルギー使用や参加者の移動交通、日常生活に伴うCO₂排出量の一部をオフセットしました。また、リレーマラソンで走った距離に応じてオフセット量を設定する仕組みとしたことで、参加者を巻き込んだ取り組みとして評価していただきました。



リーダー研修会を行いました

2月21日（土）リーダー研修会を行いました。

この度は『自部門の紹介』ということで、各部門が自分たちの行っている業務について事前に資料を作成し、みなの前でプレゼンテーションしました。プレゼン資料を作ること、自らの業務を改めて整理でき、またそれぞれの部門がみなの前で自らを知ってもらえるような伝え方を工夫してしました。相互理解を深める良い機会となりました。



晴海公園・埠頭清掃に参加しました

3月14日（土）に行われた晴海公園・

埠頭清掃にグループ社員が参加しました。



大量に捨てられたごみや、草木の回収を行いました。前日に小雨が降ったこともあり、足元がぬかるみ歩きにくい中、参加者が一丸となって回収作業を行いました。ごみと草木を回収した後は見違えるほどきれいになりました。

エコライフPJ主催地域清掃と中特グループ親睦会によるバーベキューを開催しました

4月4日（土）にエコライフPJ

主催の地域清掃と、本社駐車場にて中特グループ親睦会によるバーベキューを開催しました。

地域清掃ではグループ社員の家族も一緒に参加し、本社周辺を3ルートに分かれて側溝や道に落ちているゴミを拾い集めました。その後の親睦会バーベキューでは新入社員紹介、社員の特技披露など、大いに盛り上がりました。



第2回終活セミナーを開催しました

5月24日（日）に周南市のホテルサ

ンルート徳山にて、(株)吉本興業ポータルハートサービス主催で「第2回終活セミナー」を開催しました。

終活とは「人生の終焉を考えることを通じて自分を見つめ、今をよりよく自分らしく生きる活動」のこと。今回は第2回ということで、「『今』だから知っておくべきこと。快適なセカンドライフを送るために」をテーマに、相続税やエンディングノート、生前整理について講演させていただぎました。約80名のお客様が来場され、熱心に聞いてくださっていました。「また開催してください」というお声もいただき励みになりました。今後も継続開催していきます。



山口県産業廃棄物協会より表彰を受けました

5月28日(木) 山口市の山コグランドホテルにて開催された一般社団法人山口県産業廃棄物協会第3回定時総会において当グループより、中国特殊(株)社長・橋本ふくみが「産業廃棄物業界功労者表彰」、(株)リライフが「優良事業所表彰」をそれぞれ受賞しました。



下松市笠戸島はなぐり海岸でボランティア清掃を実施しました

6月6日(土) (株)リライフ主催で下松市笠戸島はなぐり海岸の清掃を実施しました。海岸に捨てられているゴミや、流れ着いた海藻を拾いました。また周辺の草刈りもおこない、海水浴シーズンを前にスッキリときれいになりました。



小学校にて環境出前授業をおこないました

(株)吉本興業が、2月19日(木)に櫛ヶ浜小学校で、5月21日(木)に和田小学校で、6月18日(木)に勝間小学校にて、環境出前授業をおこないました。和田小学校と勝間小学校では授業参観の日で、分別ゲームやパッカー車への積み込み体験等を保護者の方と一緒にさせていただきました。授業を通して一人でも多くの方が、リサイクルに対する関心や知識を身につけていただけたらと思います。



社員の趣味



中国特殊(株)

エコ事業部

HOSOGROUP

中谷 悦次郎

今号は私の回と言うことで、暑苦しい程の情熱をお届けしたいと思います。私の趣味と言うかライフワークは、プロサッカーの最新情報を追うことです。その中で、最も興味ある分野がスカウティングです。注目選手をスタジアムで見つけることに醍醐味を感じています。ただ、その際には全く知らない選手に注目してしまつことも多々ありますが……。



さらに、今年からJリーグに昇格したレノファ山口の運営スタッフもしているので選手を観る機会が今までより増えました。実際に、知っている選手は極僅かでしたが、想像を超える選手のレベルの高さに衝撃を受けました。

7月1日現在でJ3首位に立っているのも、J2昇格も夢ではないと感じています。そして、J2に上ればヨーロッパ各国からもスカウトマンが派遣されます。活躍が目に残れば、即ヨーロッパ移籍も不可能ではありません。来季以降山口から、スターが誕生する未来も遠くは無いかも知れません。



3R3R3R...



現在の日本の食品ロスがどのくらいあるか想像がつかますか?先ごろの調査結果では年間640万トンもの食品が廃棄されているそうです。これは一年間に消費される水産物と同量となります。また、日本が世界中で食糧難に苦しむ人々に向けて援助する食糧の1.6倍になります。更に、世界中で発生する食品ロスは、なんと13億トンにもなるというから驚きです。発展途上国では流通に問題があり品質が悪くなる事による廃棄が多いのに比べ、先進国では食べ残しで廃棄される量が多いとの事です。

日本の学校給食から発生する食品ロスについても同様で、年間生徒一人当たりの廃棄量17.2kgのうち食べ残しが7.1kgと4割以上を占めているという調査結果が出ました。

なんともったいない事でしょうか!誰でも幼い頃から「食べ物は大切にしよう」と教わったはずですが、食事前には「いただきます」食べ終わった後には「ごちそうさま」と感謝を込めて言っているはずなのに。私自身、戦後の飽食の時代に生まれ育ったので、食べたい物はすぐに手に入る環境でした。しかし、本当に心の底から感謝が出来ていたのでしょうか?反省する事が多くあります。

食品ロスを減らす為に、私たちがすぐに出来る事は買い物や外食時に、買い過ぎない、注文し過ぎない事。これだけでかなり解消出来るはずです。また、企業や団体ではフードバンクを活用するのも良い方法かもしれません。しかし、本当に大切なのは食べ物に対して「感謝の気持ち」を持つ事なのだと思います。

以前読んだ絵本「いのちをいただく」をもう一度読んで何故「いただきます」を言うのかをよく考えてみたいと思います。

※フードバンク……消費期限が近いなど品質に問題がないのに捨てられる予定の食品を、生活に困った家庭や施設に配る活動。

※「いのちをいただく」……内田美智子著

食肉加工センターでの出来事を通して食の大切さを描いた絵本。



(株) 吉本興業 代表取締役 吉本妙子

編集後記

今年は冷夏になるとテレビで聞いたような気がしますが、連日の記録的な猛暑に引き続き、残暑厳しい毎日…皆さん毎日元氣にお過ごしですか?

いつも「疲れを知らない」と言われている私も、少々(かなり?)お疲れ気味です。そんな時はガッツリ食べてガッツリ眠る!!それに限ります。

これからは寒暖の差が大きくなる季節になります。皆さん!自分の体を労わってあげて下さいね!次号は、来年2月発行予定です。皆さん、楽しみにして下さいー!

社内報を作成するにあたって、お忙しいなか取材にご協力くださいました皆様に感謝いたします。

(覇本)